

(様式2)

令和4年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
82	川崎市立稗原小学校	齊野 保史

学校教育目標	今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ・よく遊び、よく学ぶ子 ・認め合い、助け合う子 ・粘り強く、挑戦する子 	◎「生きる力」を育むために教職員一人一人が創意工夫した、子どもたちが夢や希望をもてる教育活動の実践 ◎学校・家庭・地域が連携協力し、多様性を尊重した魅力ある教育活動の実践 ①「確かな学力」を育む教育活動②「豊かな心」を育む教育活動③「健やかな体」を育む教育活動④地域の中で連携協力する教育活動⑤安心・安全、快適な教育活動と学校づくり

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 「確かな学力」を育む教育活動	わかる授業、楽しい授業のために「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める。 ・基礎基本の定着に向けた学習態勢の構築・ICTの活用推進・専科、交換授業などの学習形態の工夫・読書活動の推進	一人一人のよさを生かし、わかる授業、学び方・考え方が身につく授業を目指し、ICTも活用した情報教育にも取り組んだ。児童については、88.5%の児童が「わかった」「できた」と回答。保護者は、前向きに学習に取り組んだと4%上昇の回答。情報教育、読書活動については、課題が残る。	読書活動は、朝の読書の時間が定着し、図書ボランティアの定期的な読み聞かせも行っている。来年度は、読書活動への工夫を模索し全校での取り組みをより一層充実させる。情報教育についてもICTの効果的な活用と情報モラル教育の推進を家庭と連携し、進めていく。今後も確かな学力を育むために積極的に授業改善を図っていく。
2 「豊かな心」を育む教育活動	社会で自立して生きていくための資質・能力や態度とともに共生・協働の精神育成を通して人とかかわる力を育てる。 ・コミュニケーション能力の育成・かわさき共生＊共育の充実・異学年交流の推進・支援教育コーディネーターを中心とした支援教育の推進	児童は友達と関わりながら楽しく過ごす約95%が回答。保護者も児童会活動やクラブ活動・学校行事の取組を中心に向上したと95%が回答し、一定の成果を上げた。異学年交流活動を定期的に行い、思いやりや協調性が育ったと保護者が94%回答。さらに充実した活動の継続とその在り方を工夫していく必要がある。教育相談・児童支援は、昨年度より保護者が約5%アップした。課題として、教育相談・児童支援の充実があげられる。	異学年交流については、継続した取り組みが成果を上げた。工夫した取り組みを今後も模索し、進めていく。かわさき共生＊共育プログラムについては、児童の実態把握し、さらに効果的な活用に努め児童の自尊感情や自己有用感を育みたい。児童会を中心とした子ども達の「自分たちの生活を自分たちでつくる力」の育成とともに、ニーズに応じた教育相談、児童支援のより一層の充実を図っていく。
3 「健やかな体」を育む教育活動	将来に向けた社会的自立に必要な能力・態度を培うと共に、体力向上や食育の充実を図る。 ・キラキラタイムの充実・「ラッキー中休み」「スポーツフェスティバル週間」を活用した運動啓発・食育(望ましい食習慣)の推進	「ラッキー中休み」を利用してのキラキラタイムや「スポーツフェスティバル週間」を位置づけ、本校の特色ある取り組みとなっている。児童の91%が、身体を動かすことを楽しんでいると回答、保護者も86%がその取り組みを前向きに捉えている。運動に対して二極化している様子も見られる。活動の工夫が課題となる。	運動啓発については、「ラッキー中休み」「スポーツフェスティバル週間」など、本校の特色ある取り組みを継続かつ工夫し、次年度へ引き継ぎ体力向上に努めていきたい。食育の推進については、指導の見直しを図り、児童の実態にあった望ましい食習慣の指導を継続していく。
4 地域の中で連携協力する教育活動	保護者や地域の方々や創意工夫して子どもたちの成長を支えていく持続可能な協働体制づくり。学校からの情報配信・地域や保護者ボランティアとのつながりを生かした活動の充実・寺子屋事業への協力推進	学校からの各種おたより、ホームページ、学校公開、授業参観、懇談会などを通じて地域とのつながりを継続的に進めた。地域の方々、保護者ボランティアも今年度は徐々に再開を進めた。児童も楽しみにしている。今年度は「ひえばらてらっこ」の名称で寺子屋事業がスタートし、協力体制を推進した。さらに今後もどのような活動ができるか検討していくことが課題である。	地域とのつながりをもった活動をコロナ禍の状況であっても、できることを模索し進めた。キャリア在り方生き方教育とも関連づけながら、次年度以降も、活動の在り方を探り、さらに地域諸団体との連携強化と交流活動を推進していく。令和5年度、学校運営協議会(コミュニティースクール)を設置予定である。地域と共に歩む学校として、連携構築を図る。
5 安心・安全、快適な教育活動と学校づくり	子どもたちがいきいきと学び、活動できるような安全教育と安全管理の両面からの取組を進める。 ・健康、安全への意識の向上・安全な学校づくり	健康、安全や感染症対策について児童91%の児童が自ら行っていると回答。昨年度並である。安全な学校づくりについて、保護者は5%上昇。校舎内外の環境整備をしたことへの成果と考えられる。今後も安全管理・指導の向上を目指したい。	感染症に対する予防対策の定着と意識の変化もある。状況に応じた指導を今後も継続していく。安全教育・安全管理については、教職員の研修を行った。さらに児童の安全意識の向上と安全管理の徹底を図っていく。

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
児童中心の授業を進め、互いに学び合う姿がみられた。授業改善に向けた取り組みが成果をあげている。情報教育については、情報リテラシー等、家庭との連携を強化していく必要がある。児童会活動については、児童の自治的活動が活発で自分たちの生活を自分たちでつくる力が育ってきている。地域とのつながりを意識した活動も再開し、今後も連携の在り方を工夫、推進していくとよい。	学校教育目標の具現化に向け5つの重点を置き、学校運営を進めた。確かな学力を育むため、基礎基本の定着を図るため学習態勢の構築、GIGA端末の活用など授業改善をし、一定の成果をあげた。人との関わりやコミュニケーション能力は、特別活動の特色ある取り組みの継続により向上した。次年度の課題として、粘り強く取り組む力、読書活動、情報教育、情報教育、児童一人一人のニーズに応じた教育相談、児童支援のより一層の充実があげられる。これらについては、教育委員会の助言を頂き、家庭・地域と共に歩む学校として連携を図り、改善に努めていく。